

ブルータス、お前もか

関西大学 社会安全研究センター 小澤 守

筆者が高校生の頃、当時は教員の異動があまりなかったのか、同じ高校でかなり長く教鞭をとられる先生方があった。既に半世紀以上前のことゆえ、記憶も不確かであるが、それでも鮮明に覚えている先生がお二人、物理の足立先生と英語の吉岡先生である。足立先生には兄弟3名とも習い、特に8年違いの兄と何かと比較された。また筆者と同じく神戸大学の機械工学科の出身だったこともあり、大学進学する際にも有益なご意見を頂いた。吉岡先生の英語の授業はとても面白く、なおかつテンポが小気味の良いものであった。現在は高校英語の内容もずいぶん変化していることと思うが、当時はグラマー、リーダー、サイドリーダー(正式な科目名は忘れたが、英文法・英作文、英文読解あたりであろう。当時の成績表など見れば明らかと思うが、どこへいったやら。つまるところ読み書きが中心)であったように思う。そのサイドリーダーは小説などを読みこなすのが目的で、記憶しているものの中にシェイクスピアの『ジュリアス・シーザー』がある。なかでもはっきりと頭に残っているのは、シーザーが親友であったブルータスを含めた何人かに元老院で暗殺される場面で、シーザーが発した“**Brutus, you too!**” (原著では“**Et tu, Brute?**”)と、このセリフだけラテン語、著者が読んだものでは英語であった)である。吉岡先生はここが特にお気に入りだったようで、我々生徒には訳させず、ご自身で「ブルータス、お前もか」と思い入れたっぷりに訳されたのを今でも鮮明に思い出す。

シーザーがこの言葉を発したのは、まさしく親友と信じていたブルータスに裏切られたとの思いからであるが、わざわざここでこのような話を持ち出したのはほかでもない。またぞろデータ改竄捏造問題が表面化、しかもそれが日本を代表する巨大電機メーカーであり、世界に冠たる自動車メーカーだったからである。前者は規格とは異なる材料を使用していたとか、検査において不正があったとか、後者は不正な車検があったとのことで、それも長年に亘って行われていたのだとか。実質的に安全性が損なわれることはない、というのはいつもの言い分で、さらには経営層と現場の意思疎通に問題があったという報道もあった。

この意思疎通はそんなに容易なことではなく、そもそも企業経営が本職の経営陣が末端の品質保証や検査部門に出かけて行って、不正をしないようにと言ったところでどうなるものでもない。以前にも小欄で述べたが、その企業や社会通念、規格基準など技術と社会を包括的に見渡せる人材によって構成され、「経営陣と現場の意思疎通」が不十分であっても不正や基準に満たない商品を出さない関門的組織を設置する以外に、状況を打破する道はないように思う。そしてこの関門は独立性を強め、たとえ工場長や経営陣の命令であっても断固拒否できるよう、企業のヒエラルキーのなかで少なくとも工場長より上に位置付けられること必須である。もちろん監査役の職掌に業務監査も含まれるはずだが、一般的には準経営陣であり、独立性が高いとは言えない。外部の第三者機関に検査を委託するのも企業機密などの問題からも容易ではない。外部の第三者検査機関には、それぞれの企業内部の検査部門(上記の関門組織)の認証を委託すればよく、やはり企業内にしっかりした関門を設置するのが最も適切であろう。

今回の状況について、日本のモノづくりの失墜だなどとのマスコミ報道もあるが、そうではない。技術に係ってSafety culture（「安全文化」とは訳さないでほしい）を基本に置く社会の構造変化に、我が国伝統の腕と根性で、いわば竹やりで突き進もうとしている組織の悪弊が顕在化したもの、と理解した方が分かりやすいし対策も立てやすい。経営層が現場に入ってコミュニケーションを密にするのが重要であるのは言うまでもないが、まず何より取り組むべきは会社の基本理念に忠実な組織を構築することだろう。経営層や現場の要請であっても、基本理念にそぐわないときには梃子でも動かない、決してブレないといった組織を。



Ay. et Philippi (iv. p. 28a).

SHAKESPEARE'S
TRAGEDY OF
JULIUS CÆSAR.

EDITED, WITH NOTES,
BY
WILLIAM J. ROLFE, A.M.,
FORMERLY HEAD MASTER OF THE HIGH SCHOOL, CAMBRIDGE, MASS.

WITH ENGRAVINGS.



NEW YORK:
HARPER & BROTHERS, PUBLISHERS,
FRANKLIN SQUARE.
1887.

W.J. Rolfe編, Shakespeare's Tragedy of Julius Caesar, Harper & Brothers, New York (1887)の内表紙